

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年4月3日(2014.4.3)

【公表番号】特表2013-519691(P2013-519691A)

【公表日】平成25年5月30日(2013.5.30)

【年通号数】公開・登録公報2013-027

【出願番号】特願2012-553159(P2012-553159)

【国際特許分類】

C 07 G 1/00 (2011.01)

C 08 H 7/00 (2011.01)

D 01 F 9/17 (2006.01)

【F I】

C 07 G 1/00

D 01 F 9/17

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月13日(2014.2.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

64.5質量%以上の炭素含有量を有するリグニン誘導体。

【請求項2】

66.5質量%以上の炭素含有量を有する、請求項1に記載のリグニン誘導体。

【請求項3】

68.5質量%以上の炭素含有量を有する、請求項1に記載のリグニン誘導体。

【請求項4】

69.5質量%以上の炭素含有量を有する、請求項1に記載のリグニン誘導体。

【請求項5】

0.45mmol/g以上のアルコキシ含有量を有する、請求項1に記載のリグニン誘導体。

【請求項6】

約67.5質量%～約75.5質量%の炭素含有量を有する広葉樹リグニン誘導体。

【請求項7】

約66.5質量%～約80.0質量%の炭素含有量を有する針葉樹リグニン誘導体。

【請求項8】

約64.5質量%～約75.5質量%の炭素含有量を有する一年生植物纖維リグニン誘導体。

【請求項9】

請求項1に記載のリグニン誘導体を含む炭素纖維組成物。

【請求項10】

炭素纖維における請求項1に記載のリグニン誘導体の使用。

【請求項11】

炭素纖維の製造方法であって、以下の工程、

a バイオマスを収集する工程、

b 請求項1に記載のリグニン誘導体を抽出する工程、

- c 繊維を溶融紡糸する工程、
 - d 繊維を安定化する工程、及び
 - e 繊維を炭化する工程、
- を含む方法。